

『常識を考え直すワークショップ』とは？

「あたりまえを、発明しよう。」をビジョンに掲げる
株式会社リブセンスとMIMIGURIの共同設計にて
『差別やハラスメントのない公正な社会の実現』を目指すワークショップ





第一弾 セクシャルマイノリティ編

[対話編] オフライン実施

[歴史編] ①2020/5/13 ②5/20 ③5/27

[内省編] ①2020/6/17 ②6/24 ③7/1



第二弾 ジェンダーバイアス編

①2020/12/2

②2020/12/16

③2020/12/23

④2021/1/6



第三弾 ニューロダイバーシティ編

①2021/11/8

②2021/11/15

③2021/11/22

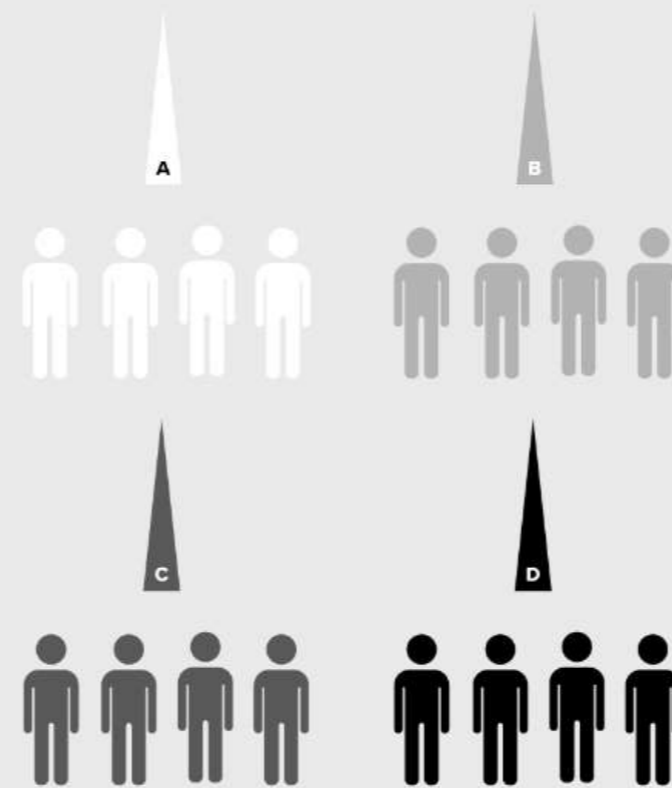
第一弾

[セクシャルマイノリティ編]

さまざまな性のあり方を
望んで生きる人々の物語に触れ、
その人物を演じながら対話することを通し、
自分のなかの「こうあるべきだ」という
常識(バイアス)を問い直し、
多様な性のあり方を探求する。

STEP 1

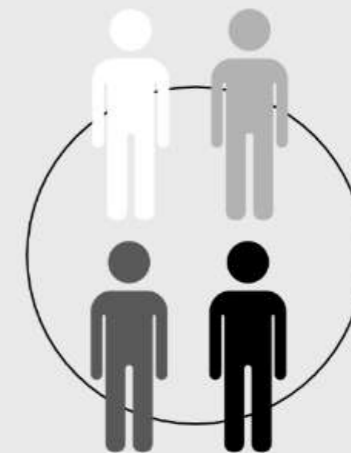
楽屋 15min



4人一組のグループ（DAY1のチェックインワークグループ）にそれぞれ1つずつシナリオを割り当てます。一体どんな人物像なのか、演じる上で何を大切にすべきか4人で対話しながら役作りを進めてください。

STEP 2

舞台 20min



割り当てられたシナリオになりきり、新たな4人グループである問いについて深めます。舞台での振る舞いはみなさんに一任します。画面から姿を消しても、音声をミュートしても構いません。ただ、“割り当てられた性”を演じ続けることは遵守してください。

グランドルール：ただし、自身の心の中の嫌な部分に触れそうになれば対話を止めること、また他者に対話/発話することを強めないこと。

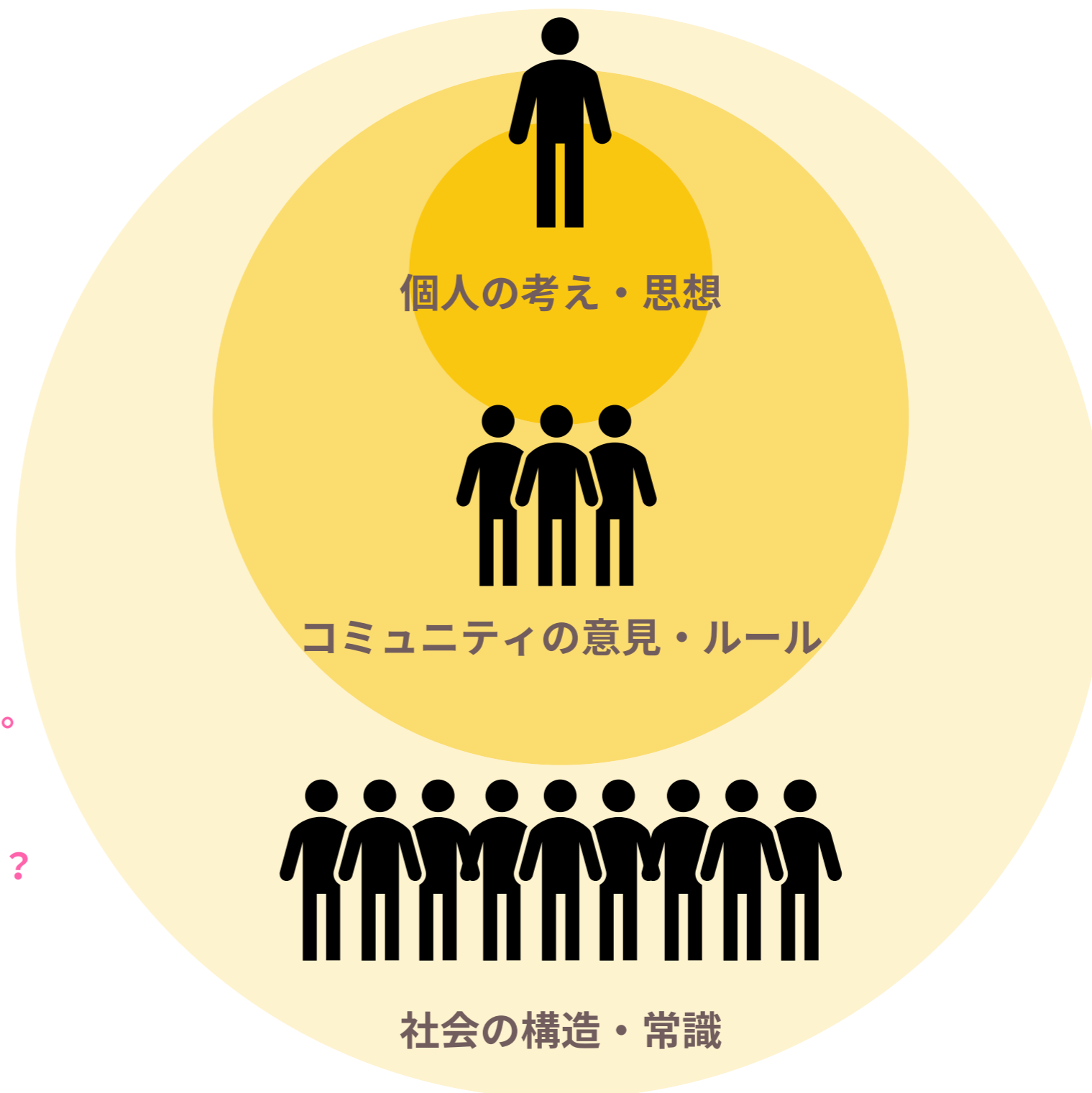
第二弾

[ジェンダーバイアス編]

個人の気付きから 社会の気付きへ

いかなる構造的差別も、社会的抑圧も、
個人の無意識バイアスや小さな偏見からできている。

そこに自覚的になり、振る舞いを変えることから、
わたしたちは社会構造を変えることもできるのでは？



必読図書



いまだに不当な性差別や性暴力がはびこる現代社会。何が問題で、その解決には何が必要なのか。本書はその答えを追求し、徹底して論理的に考えます。

人はなぜ、女か男かという性別にこだわるのか。その“分類”をいかに意味づけ、社会制度に組み込んでいるのか。

“分類”する実践に着目する今までにないジェンダー論入門。



推薦図書



SNSが発達した現代「CM」と「炎上」は切っても切れない関係となった。とりわけジェンダーに対する無理解に端を発する炎上案件は数知れない。最近も日本赤十字社のポスターが炎上したばかりだ。一方で、新しい人間や家族のかたちを描いて共感を抱かれた広告もいくつが存在する。両者をわかっものは何だったのだろうか？

東大で人気講義を開く社会学者がCMを切り口に語る、目から鱗のジェンダー論。

[広告] [CM]



ある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジヨン。誕生から学生時代、受験、就職、結婚、育児...彼女の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちはだかるものが浮かびあがる。

女性が人生で出会う困難、差別を描き、絶大な共感から社会現象を巻き起こした話題の大ベストセラー。小説を通して現実を内省させる傑作。

[小説] [物語]



行動設計を成功させるための「DESIGN」
=Data(データ)
+Experiment(実験)
+SIGNpost(標識)。

ハーバードの女性行動経済学者が示すエビデンスに基づく男女平等への道筋。

[行動経済学] [社会デザイン]

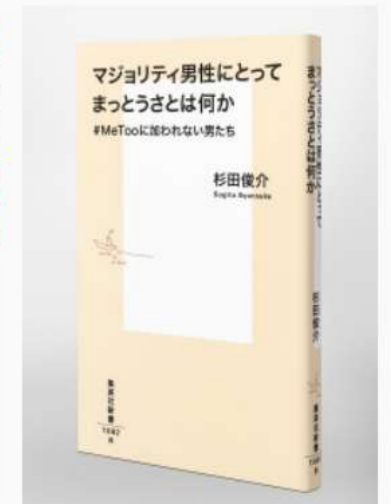


本ってどう読んでいますか？実は教わったことのない「本の読み方」

読書とは“まだ読んでいない自分”と“もう読んでしまった自分”との共同作業である。

- ①既に知っていたことを言語化してくれたことへの共感
- ②書き手への違和感 / 反論が浮かび上がる

ただ知識を取り入れるのではなく、その地点・その地点で自分自身が何を考えたのかをきちんと掴んでおいてほしいと思います。
👉読書期間中の感想置き場はまたSlack上でご案内します！



1 「〇〇しない」を「〇〇する」へ変換する



人(主に子供)を養育する時「男(の子)らしい」「男(の子)らしい」という言葉が必ずしも褒めたいことの内容を分析して決める	職務を依頼する際に女性に依頼しがちな、という行動の偏りを意識して、男性にも依頼できないか検討する	パートナーの話になった時に、相手の性別を限定しない呼称を使う	男性の育児について、女性の育児と同じように扱う。	女性の昇進意欲の確認する際は意図がない場合そのまま受け取らず、理由を深掘りする	「育休は取って当たり前なものなんだな」と周囲が感じられる振る舞いをする
学校や職場での教育の一環で男性として過ごす期間、女性として過ごす期間を作る	歴史を学ぶ際にその後も同時に学べるようにする。	子供に性別問わず、男児向け女児向け両方のおもちゃを買って知育する。	「ふつう」や「当たり前」にとらわれない会話を意識する	パートナーができた際には、行いたい振る舞いと期待する振る舞いについて話してみる	
女性の昇進に関わる面談の際に女性の上司を第三者としておくようにする。	結婚と独身という概念を無くす。	女性が管理者になれるように性別問わず昇進するための思考出来る環境を思考出来るようにする。			

2 個人のアクションによってコミュニティ（グループ・組織）にはどのような変化が生まれるだろうか？



女性リーダーが増える	セクハラ・モラハラハラスメントが減る	IT企業で活動する女性が増える	個人の休暇に寛容な組織になる→働き方が変わる	個人に最適化(望む)した働き方が出来る
実家に帰りやすくなる	男性なら女性の気持ち、女性なら男性の気持ち。お互いの性別を気遣えるようになる。	結婚してるから幸せ、独身だから不幸という差別的な表現がなくなる。	育休取得率90%	会社数が減る
性別にとらわれない「ごうなりたい」将来像を描く子供が増える	歴史に違和感を覚えられるようになる。当たり前を当たり前と思わないうようになる。	育児放棄は減少しそう。	管理職の男女割合が3:7~4:6	コミュニケーションが難しくなる
組織の中で幅広いチャレンジをする女性が増える	男女の給与バランスが同等になる	平均出生率が上がる	セクハラ・モラハラ・マタハラを許容しない雰囲気	

3 このようなコミュニティが多数生まれた50-100年後の未来にどのような社会が実現するだろうか？



人気職業ランキングなどが男女で分かれていない	女性初の〇〇という表現(概念)が無い	家族の定義が拡張されている(父母兄弟祖父祖母の構成以外がある)			
男性でも妊娠出産できる	男女とゆう概念がなくなる	出生率が増加	間違った政策(歴史)を正せるようになる。	同性婚と異性婚それぞれへの法的サポートが同等になる	育休取得率90%
社長・行政区の長・総理大臣の男女比が5:5	〇〇という言葉が死語になる。例: 男性の育休、女性の育休、	幸福度増加	「本業」「副業」の死語化	自殺率低下(したらいいなあ。。)	会社数が減る
過労死という概念の消滅	経済成長	"ドロップアウト"しても回復できる社会	ひと休みがしやすい	8時間労働していない	セクハラ・モラハラ・マタハラを許容しない雰囲気
LGBTという言葉がなくなっている(レズビアンカップルが「レズビアンってなあに？」って言っている)	「血縁」だけではなく多様なファミリーが増えている	"結婚"の選択肢が増えている(例: フランス)	出生率が上がる	自分にとって安心できるコミュニティがたくさん増える	男性女性という言葉とセクシュアリティとの結びつきが弱くなる

第三弾

[ニューロダイバーシティ編]

DAY1 発達障害について



DAY2 合理的配慮について



DAY3 組織における合理的配慮（ニューロダイバーシティ）

障害【しょうがい】 [名] (スル)

1. さまたげること。

また、あることをするのに、さまたげとなるものや状況。

2. 個人的な原因や、社会的な環境により、

心や身体上の機能が十分に働かず、活動に制限があること。

障害とは
個人の所有物ではない

**“障害”とは個人の特性だけに起因するのではなく、
既存の社会常識との相対化でもある。**

第三弾

[ニューロダイバーシティ編]

現社会のどのような“常識”が
“障害”を作り出しているのかを考える



“常識”が考え直されたことによる新たな社会像
= ニューロダイバーシティについて考える

常識が覆るとは
どういうことか？

例① 1946年 女性参政権を行使（日本）



例② 1990年 WHOが同性愛を精神障害の分類から除外



映画『キャロル』 1950年代のアメリカが舞台



現代から振り返ってみると、信じられないような“常識”が
社会を当たり前のように覆っていた時代がある。

進歩していく社会の中で、考え直されるべき“常識”がまだあるのではないか？